

# 関川の関所を抜けて 善光寺

## 北国街道は善光寺道

江戸と越後を結んだ北国街道は、幕府が佐渡で産出した金銀を運ぶ道として、また加賀藩などが参勤交代を利用して道として知られていますが、当時の民衆にとっての北国街道は、東日本屈指の靈場とされていた信濃・善光寺を参拝するための道でした。妙高市内の小出雲にある北国街道と飯山街道の分岐点には、旅人のために「右善光寺道 左飯山道」という道標が建てられています。



小出雲の道標(妙高市)

江戸時代、江戸と地方を結ぶ主要な街道には関所があり、北国街道沿いでは、越後と信濃の境を流れる関川に「関川関所」が置かれていきました。

関所を正式な手続きを行わずに通過することは「関所抜け」・「関所破り」と呼ばれ、死罪となる重い罪とされました。ところが、江戸時代も後半に入ると、善光寺参りに向かう多くの女性が関川関所を抜けて越後と信濃を往来しました。

見つかれば死罪となる関所抜け。当時の女性たちは、どのような理由から、どのような方法で関所を抜けたのでしょうか。また、命がけで関所抜けをした女性たちにとって、善光寺にはどのような魅力があつたのでしょうか。



関川関所

# 遠くとも一度は参れ 善光寺

善光寺信仰が江戸時代の女性の間で流行した理由の一つは、善光寺が京都や奈良の大寺院とは異なり、中世から「女人救済」を唱え、女性の参拝を広く受け入れていたからです。

江戸時代の善光寺は、江戸をはじめとする全国各地で本尊の出開帳（出張公開）を行い、將軍家から庶民に至るまで、様々な階層の女性に女人救済のご利益を伝えました。

その結果、各地に善光寺講と呼ばれる信者の集まりが作られ、多くの女性が集団で善光寺を参拝するようになりました。

善光寺に関しては、わが国に最初に伝来した百濟仏を本尊とするという説話や、宗派を問わず誰でも参拝できること等も広く知られており、世間では「遠くとも一度は参れ善光寺」と語り継がれ、一生に一度参拝するだけで極楽往生が叶うとされました。

善光寺（長野市）



# なぜ女性たちは関所を抜けたのか

理由の一つは、手続きの煩雑さにありました。

諸国を旅する者は、出発の前に村の庄屋や旦那寺に願い出て往来手形という身分証明書を書いてもらいましたが、女性はこの手形に加えて、権限のある者が発行する関所手形を入手することが必要でした。

この関所手形の発行者は決まっており、江戸から旅に出る場合は江戸城にいる幕府留守居、越後から旅に出る場合は高田藩主が発行者となりました。この手続きは村の庄屋をはじめ、何人の役人の手を介して行われましたので、時間や経費が多くかかり、出発を急ぐ女性にとってはわずらわしい手続きとなりました。

そして、最も大きな理由となるのが、関所の通過方法を正しく理解している者がほとんどおらず、厳しい取り調べの末に通過できないかも知れないという不安を多くの人が抱いていたからです。

このような理由から、関所を正規の手続きをふまづに通過しようとすると女性が少なくなかつたと考えられます。そして、彼女たちが最終的にそのような決断に至ったのは、関所を安全に抜けられるという確かな情報を事前に入手していましたからです。



③



①



④



②

# 関川関所の「犬くぐり道」



## 関所抜けの手引き

関川宿では、明け方に旅籠の主人が「犬くぐり道」と呼ばれる裏道を先導し、開門する前の関所の柵（姥坂沿いに設置されていた柵か）をくぐり抜けるという方法で関川に架かる木橋のところまで案内したようです。

## 関所抜けを記録した旅人

関所抜けを体験した記録で著名なものに、清河八郎の『西遊草』があります。鶴岡から母親と伊勢参りに出かけた清河は、関所抜けを実行する前の晩、関川宿で越後片貝（小千谷市）から訪れた善光寺へ向かう女性一三名・男性一名の集団と一緒になりました。清河はこのときのことについて、女性たちを引率する男性が一人では不安だということで、一緒に関川関所を抜けたと記録しています。